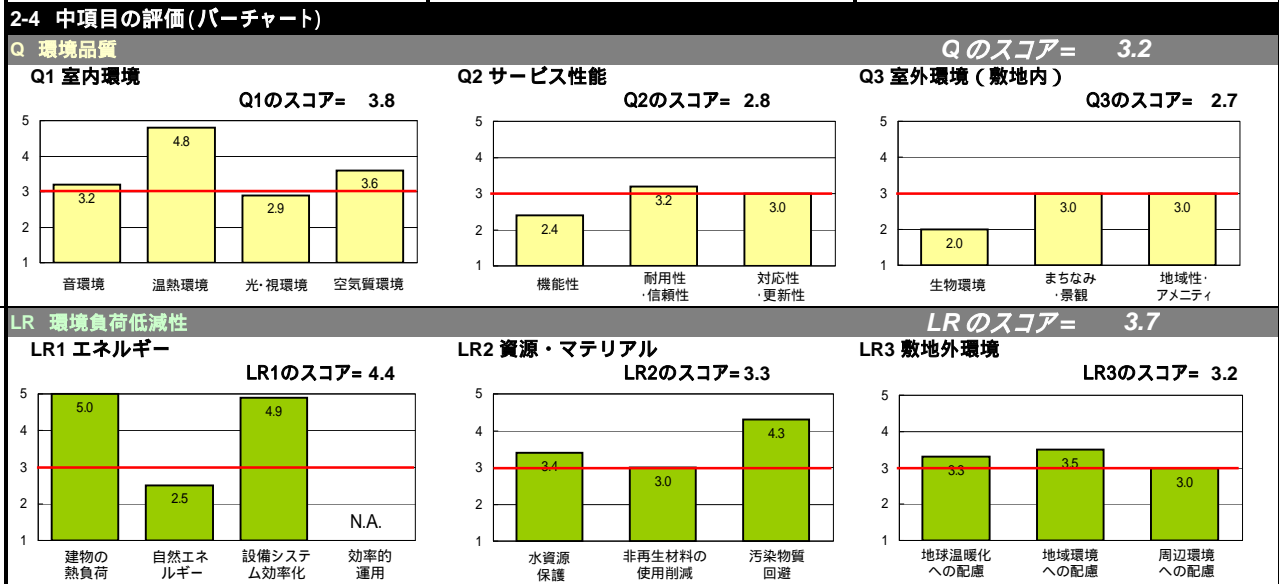
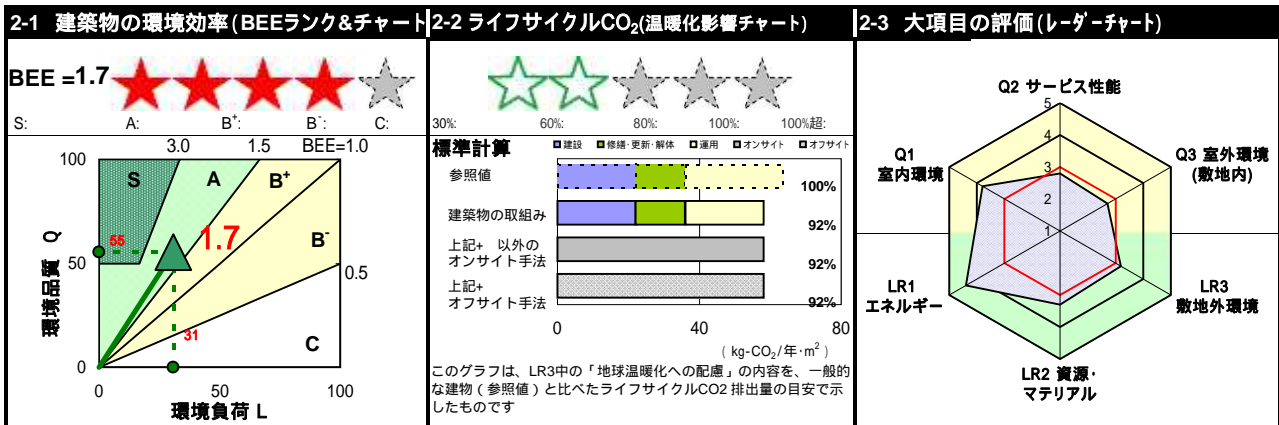


CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ポレスター小田急相模原	階数	地上5F
建設地	座間市相模が丘5丁目719番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	128人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年5月 予定	評価の実施日	2011年6月3日
敷地面積	1,566 m ²	作成者	荒井建築設計事務所
建築面積	716 m ²	確認日	2011年6月4日
延床面積	2,624 m ²	確認者	アトリエ野風土



3 設計上の配慮事項	
総合 敷地が住宅街に位置するため、周囲の景観を損なうことなく、極力圧迫感の与えることの無いよう配慮し計画とした。	その他
Q1 室内環境 厚木基地に近い地域でもあることから、住戸のサッシには遮音等級T-2を使用し遮音性に配慮した。外皮性能については日本住宅性能表示基準「省エネルギー対策等級」における等級4に相当する性能とし、建物の熱負荷抑制に配慮した。	Q2 サービス性能 建築物移動等円滑化誘導基準を満たすように計画し、パリアフリーに配慮し計画した。
LR1 エネルギー 住戸の断熱材について、日本住宅性能表示基準「5-1 省エネルギー対策等級」における等級4に相当する仕様として、建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 内装仕上げ材等に有害物質を含まない建材を使用し、発泡系断熱材においてもODP=0かつGWPが低いものを使用した。
Q3 室外環境(敷地内) 周囲の景観を著しく損なうことのないよう配慮し、敷地の空地には可能な限り緑化をした。また、共用部のラウンジコーナーから一体の空間となるように坪庭を設け、建物内外を連動させる、豊かな中間領域の形成を行った。	
LR3 敷地外環境 地表面被覆材に配慮し敷地外への熱的な影響を低減する計画とした。	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい